

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 文化財課

会 議 の 名 称	令和6年度 第2回茅野市博物館協議会		
開 催 日 時	令和7年2月19日（水）午前10時30分～午前11時40分		
開 催 場 所	八ヶ岳総合博物館 実験工作室		
出 席 者	河村洋委員長、白鳥保美副委員長、木次美穂委員、市川純章委員、小平正八委員、両角紀子委員、吉江利彦委員、田中正行委員、両角茂子委員、池田啓子委員、黒田嘉孝委員、小川博子委員、矢崎進一委員 上田佳秋生涯学習部長、小池岳史文化財課長兼尖石縄文考古館長、山科哲同考古館係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香同博物館係長、鵜飼幸雄神長官守矢史料館長、柳川英司同担当		
欠 席 者	山田利幸教育長、守矢昌文考古館特別館長		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍 聴 者 の 数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
生涯学習部長	1 開会 皆さんこんにちは。 お寒い中、お忙しいところお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。 それではただいまより、第2回茅野市博物館協議会を始めさせていただきます。 なお本日、新年度の予算発表と重なってしまい、教育長、若干遅れてくる予定となっておりますが、ご了承いただきますようによりしくお願いを申し上げます。 それではどうぞ皆様よろしく願いいたします。 2 教育長あいさつ 山田教育長到着次第あいさつ予定（予算発表が長引き欠席） 3 茅野市博物館協議会設置条例について 4 協議事項 （1）審議会等の会議の公開について 協議に先立ち、茅野市博物館協議会設置条例について事務局から説明。 協議に先立ち、協議会の公開について事務局から説明。 ～資料1、資料2の説明～ 本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行い、非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とします。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開します。 （承認） 了承される。		

委員

(2) 各館 令和6年度事業報告について

資料に基づき、年間事業報告について事務局から説明を行う。

- ・尖石縄文考古館（考古館長）
- ・八ヶ岳総合博物館（博物館館長）
- ・神長官守矢史料館（史料館館長）

関心ごとの一つとして縄文検定があります。

この間、どこかで縄文検定をやりますというアナウンスがあったのですが、その後いつ開催かがわからなくなり、検索をしたのですが、どこにも出てこなかった。どこかのチラシに入っていたのだけれども、ホームページを見てもないし、「広報ちの」を見てもなかった。関心があって探そうとしても見つからないのは少し残念だなと思いました。多分いただいた通知に載っていたと思いますが、その後フォローしても探せなかった。

あとは、全般的なことですけれども、やっていることはすばらしい。これは、行財政改革が片方で動いているところとの関係ですけれども、やっぱり行財政改革の中で議論されている部分から見ると、どうしてもその基本的な考え方が、財産管理、つまりお金と施設の管理という考え方が強く出ていると思います。その施設の存在意義や、価値が大事だと思います。だからやっぱり、市民の側からその必要性とか価値とかをどんどんたたき台として出していかないといけないと思います。

だから多分それが行財政改革工程をどれだけ大切で必要なんだと言わないと、お金とコストだけで、削減になってしまうということが今起きているのかなと思います。

そういったところを見たときに、例えば、今のこの報告書というのを見たときに、そもそもどこを目指しているのかがはっきりしていないと、「収集・保管・展示、そして教育普及の場として設置されています」だから、やっていればいいというふうになっているんですよね。だから、どれだけやればいいとか、そういう質的量的な目安が出るような理念・ビジョンがまだ不足している。やっていればいいんだったら縮小してもいいよねって言われかねない。「そんなに変わっているの？でもこんなにやらなくてもいいんじゃないの？」という時に、（違うと）言っていくものがないんじゃないかと思います。

そういうことを運営している側で考えていくようなことをしないと、今のままだとやっていればいいみたいところで終わってしまう。

また別な考え方も感じたのですけれども、来館者数の話とかもあります、例えば、ここの事業は収益性事業として独立採算でやっているわけではないですから、増えればいい、収益が上がればいいではないはずですよね。

そうすると、今の人員・予算であれば、このぐらいが適正人数であるというふうな算出があってもいいのかなと思います。来館者がそれ以上来るようになったら、人員の増強、予算をつけていただかないと、これ以上は入館者をさばけません。のようなことを言うと、じゃあ、お金をつけようか、つけまいかだとかの判断基準になると思います。今だとその、その目安もない。だからこの間、財政から出てきた資料には、かかっているコストを入場者数で割ったら、このぐらい料金取らないとやっていけないよって試算だっ

	たけれども、あれはちょっと変な話だなと去年僕言わせてもらったんです。茅野市としてこのぐらいいコストをかけるものに対して、来場者数があつて、これだけ入館料をとったら、悪いたとえですけれども、「ラッキーお金が入っている」くらいな感じではないでしょうか。それを当てにしてい何かやるような事業ではないのではないかと思います。そういった意味では、どのぐらいいキャパシティならば今は入館者として対応できますという、そんな考え方もあるといいのかなと思います。 そういったことを考えたときに、もう一方やっているすばらしいことで、もう1個上の概念の何か目標とかビジョンとかそういう概念があつてもいいかと思っています。 縄文検定に話を戻しますが、僕は、茅野市民全員縄文検定を受けるべきだと思っています。そのためには今はここまでできているが、まだまだ足りないとか。なぜそうかという、館長が先ほどおっしゃったように、まちづくりは人づくりなんだと。それをちゃんと掲げてそのためにはやっぱりそれを知ってもらって郷土愛、地域愛を感じてもらって、自治力を高めていく。そうするとまだここまでしか行っていないとかとか、お金をかけようとか、そういうふうな話になると思います。 そういった意味で、もう1つ何かその上の目標とか、そういう考え方がしっかりと載っていてもいいのではないかと感じました。
副委員長	大変豊富な事業をやっていたであつたがありがたいなと思つております。 先ほども申し上げたと思いますが、市の広報には、定期的に情報が出てきますが、タイムリーという意味を考えるとやっぱり新聞社の広報というのはそれなりに価値があるかなと思います。 あとは定期的には SNS などを使つてもっとアピールできるものはアピールしていてもいいのかなと思います。 先ほど映画の話をして聞いたのですが、私もこの間映画「鹿の国」を見に行つたときに、映画でミシャグジ役の主人公を演じている子どもが知っている子に似ているなと思つて、今、小学校で理科を教えている子に聞いてみると、能をやつていて、たまたま映画の出演に呼ばれたと言つていました。あつた後その子といろいろ話をしたんだけど、地域の人が何かこう繋がるようなポイントみたいのがもっと増えればまた面白いかなあと思つていました。
委員長	やっぱり連携というのは1つのキーワードだろつと思つています。 今、地域の方が諏訪の八ヶ岳山麓の寒さというものを1つキーワードにして、いろんな食の関係で連携していく企画が新聞にも出ています。この八ヶ岳山麓で、もっとお互い繋ぎ合わせたもので、場合によっては食というものも入つたりして、それぞれの特徴を生かしたもので子どもたちや、市民にとつなぎながら進められるところがあればまた、一歩前進かなあと思つていて、聞いていました。
文化財課長	活発にやつていただいて、それは良いのですが、最近のいわゆるデジタル、Facebook や Instagram の発信はどのようになっているのですか。 それぞれの館ではどのようにやつていらつしゃるのか、そういうことについてお話がなかつたのでお聞きしたいと思います。 尖石縄文考古館では、先ほど副委員長からもありましたけれども、その情

博物館長	報発信は、今までのやり方ではなくて、変えなければいけないという部分があります。未就学児のイベントを昨年度から始めたんですけども、保育園ですとか小中学校にキッズビューという、それぞれ保護者宛にラインでいくような、周知の方法があるということで、それを使って今告知をしています。 その効果がありまして、参加者が増えているというような状況です。 さきほど副委員長がおっしゃられた新聞っていうのは非常に面白いなと思って、今年は植物・シダ・コケ・キノコの観察会をやったのですけれども、これを1つにまとめて、こういうふうにやりますよということを、新聞社を通して、皆さんに話をしました。これは非常に効果があったというふうに思っています。 それから、博物館のイベントをやるときには、先ほど、尖石の課長からもお話がありましたけれども、学校のキッズビューに入れさせてもらって流させてもらっています。これも非常に効果があったと思っています。 実験工作グループは、来年度は、「ワクワク工作講座」について、実験工作グループで LINE を立ち上げて、何かやろうかなというふうにも考えているところです。
史料館長	史料館の方は、市役所のホームページ、ですね、それからイベントがあれば、必要に応じて、新聞、各社が報道するという、特に積極的にいろいろな周知活動ということはしていません。 結構それでも頼りになるのは、史料館に来られる、そういうお客さんのですね、お客さん方のその口コミというか、その SNS ですか、そういう繋がりですね。来場されるお客さん方がどうもやっぱりそういうものを見てこられる方が圧倒的に多いようです。
委員長	今の外国人のインバウンドでも、結局そうやって SNS で広がっているところですから、そういうのもむしろいいと思います。他方それより積極的に、施設側というか、自分側でも広げている時代ですから、ホームページに加えて SNS を使ったより積極的に、ただ目的的に連絡というだけではない、常に発信しているというような時代になってきていると思います。
委員	YouTube を見ていると、三館にお邪魔した YouTube の動画が結構見るんですけど、そういうときって、みんな博物館に行って、その YouTuber の方が、ちょっと動画撮らせてくれっていうそういう申し込みって結構あるのですか。 YouTube で見ると結構入っているのですよ。それで最近人気でどうのこのとか、尖石縄文考古館だとか、神長官なんかも、若い女の子同士で来たりしたものを動画にアップしているのですが、見ると、それは、提携してっていうか、そういう連絡があってやっているのかその辺がよくわからなかったの。個々に聞けばいいんだろうけど。
考古館係長	考古館に関しましては、そういう取材とか、ちゃんと連絡があるのは、ほとんど YouTube の動画に上がっているものの中にはないと思います。
委員	そうですか。じゃあ割と勝手にというか。
考古館係長	一応撮影自由ですね。
委員長	インフルエンサーなどと言いますね。
委員	そうですね。わかりました。

委員	ちょっと何か水を差すような議論で申し訳ないんですけど。 情報発信の、まさにその、ねらいを考えないといけないと思います。つまり外国人にいっぱい来て欲しいのかとか、それで外国の方々がたくさん来られて、いつもいっぱいになっているっていう状況になることを僕は望んでいるのかとか、何のために広報が必要なのかという。断片的に見るといっぱい来た方がいいっていうのは簡単なのですけれども、その先を考えた時に、そこは余力でやるのだけどそこにエネルギーを注ぐのかっていう、やっぱりその限られたリソースの判断って出てくると思うので、そもそも何がしたかったのかというところを見失うと、目先のことを一生懸命になりがちかなと思います。 そういう意味ではオーバーツーリズムというふうな言葉に、茅野市はまだそこまで至っていないのでしょうけれども、ちょっとした有名な観光地だと、もう外国人だらけで、あんなふうにはなりたくないよねという声も聞いたというのものもあるわけですから、やっぱりそういう意味でも少し考えておかないと、何でもかんでも情報発信するのはどうかなと思います。 少なくとも、例えば、茅野市民は、10年に1度は博物館に行くぐらいの、単純目標を立てた時に、まだ来ていない人が8割いるぞ、そこをどうしようとかを考えることも1つの目安なんじゃないかなと思います。 もちろん、別に行きたいと思っていませんっていう人もいるかもしれませんが、行きたくない理由が知らないからだけかもしれないし、そういうような何かその茅野市が知的資金をかけて、維持しているという以上は、やっぱり知ってみて茅野市っていいなって、郷土愛、地域愛とかになるかもしれないし、そんなことを考えたりするのが上位概念があってそうするとまだまだ市民のここまでしか普及していないので、広報に力を入れるためにもう少し、力を入れたりとか、そんなような説得力になるといいかなと。そういうのがもう1個目標があると良いのかなというのは、一生懸命頑張っているだけに感じました。
委員長	何かいろいろある中で、じゃあどれを選ぼうかという判断で市民から先に順番にやっていかないといけないということもないとも思います。
委員	それももちろんおっしゃることはわかりますけども、そんなに心配していない。そういう心配ができるようになるといいと思ったりするのですけれども。 必要なことをやる、できることをやるのではなくて、必要と思うことをやるのが重要かなと思います。 それでは次の方へ。今のことに関連しているかと思いますので、行政改革について、お願いしたいと思います。 （3）行政改革について 資料に基づき、文化財課長から使用料の改定の3月議会見送りの件と八ヶ岳総合博物館の優先改革事項検討案の説明を文化財課長から行う
委員	その通りですっていう感じですけども。今、この事をまとめましたといったときに気になったのは、担当課の人でまとめるんだろうけど、そこに市民とかそういったことで、そういったことを一緒に議論しないのかとい

委員	たところ、それが専門委員との意見であるということですよね。 例えば、その中にはその市民研究員とかそういうのも入ってくるのですよね。多分そういうテーマ性のある活動している人を、多く入れるのが茅野を広げることになるのではないかなと思っていて、これに基づいて決定するわけではありませんと言っているアンケートだけど、とても恣意的で、何か嫌な感じがする問いを投げかけているなど。どれだけの関心と知っていることがあっての判断かっていうのがわからないわけで、すれ違ってしまう。 これは削減のストーリーとしては都合が良いストーリーにはなるのですが、それを続けていくと、極端な話がわかりやすいかなと思うのですが、茅野市民の人口が減少するとしたら、これは茅野市いらないと言われているので茅野市解散を決意するんですかということと同じなので、希望が少ないからいらないという判断でいいのか、やっぱり何をしていくのかっていうことを考えないといけないのかなって、そういう必要なことを考えていくときに、いろんな価値感がある中で考えなきゃいけないんだけど、今この数年間進んでいるってのはどうしても、お金の採算ベースで話が進み過ぎているなっていう感じで、そのあり方とか、何のためっていうのをもうちょっと考えていかないといけないのかなと感じています。 あと、1つ僕自身思ったのは子どもたちっていうのがあったのですけれども、これも、妥当だと思うのですが、僕は、人口って結構移動していると思っていて、生まれてから死ぬまで、ここで生きる人の割合っていうのは、だんだん年代とともに変わっているんじゃないか、つまり移住してくる人たちもいるでしょう。その人たちに、地域の教育とか歴史を伝えるのはどこですかというようなことがあるときに、やっぱり小学校のある時期にやるだけで済むんじゃないかと、引っ越してきた人にも知ってもらってっていうので、例えば、住民票を出したところで、入館チケットとかをあげて、義務ですから行ってください。ぐらいのことを一言言って、何年以内に行ってくださいぐらいのことがあってもいいのかなとか、やっぱりそれを知ってもらわないといけないと思います。ただ寝泊まりできればいいところですよじゃないような気がするので、それがさっき言った郷土愛地域愛で、だから茅野市と一緒に盛り上げていこうかっていうふうな、何か自治力向上に繋がってって、それが結果的に「持続可能」な。 これは最後のところですけども、いつも残念だなと思っているのは、ここの行財政改革の所に、持続可能な行政体であるためにということで、市役所が維持できればいいって話を書いてあるだけで、茅野市のこと考えてないんですよね。これね。 私を感じているのは、こういう施設が、専門性を高めて深く掘り下げればいいのかどうか。 例えば、お祭り騒ぎじゃないですけど、人をたくさん集める。以前やられていた縄文まつりとか。ああいうのは非常に素晴らしいイベントだったと私は、思っています。 一般市民を呼び込むためには、やはりそういうお祭り騒ぎじゃないけれども、そういうイベントが必要だなと思います。 ひとつ例を挙げますと、以前、小諸が新幹線から取り残されて非常に衰退
----	---

副委員長	したわけですが、今、そのまちづくり・まちおこしで、「こもろ・こまへす」をいろいろな SNS で発信して、今非常に盛り上がってきて、見直されてきているというようなことで、とにかく観光客を呼び込む、そういうことが非常に大事だになって思うわけです。 今の場合は、博物館とか、そういう資源になるものがあると思うんですね、縄文文化とかですね。そういうものをメインにして呼び込む方法、SNS に発信する方法かなんかを考えて、やるというようなことも必要じゃないかと思います。 それからもう 1 つ、松本の例を言いますと、私も、美術館でグループ展をやっているんですけども、そんな中で外国人が非常に美術館を訪問して見ているわけです。1 つの目玉としては、あそこに草間彌生って作家がいますが、それを見にいっぱい集まってきます。そのついでに我々の展覧会も足を運んでくれるんです。ですから、人を集める方法、まずそれを考えるのが、いいんじゃないかなって感じております。 情報発信の方法等含めて、よその自治体も参考にしながら、研究していくというふうな方法もあると思います。 私もこの 4 ページの結論は考えるとその通りだと思いますが、このアンケートは先ほどお話しいただいたように一般の方の中からの抽出のようですが、実際に関わっている方たち、利用している子どもたちとか学校とか、それから市民研究員の人達といった、今まで博物館活動に関わってこられた人たちがよかったなっていう思いも、やっぱり市民にアピールしてしかるべきじゃないかなと思います。 小学校の頃に関わったがために今二十歳くらいになって、ここ、ふるさと茅野の良さが分かるとか、育てられたなとか、ありがたいなっていう思いを持てたということをアピールできるとよいかなと思います。 もう 1 つ教育施設になれば、1 日で成果が出るわけじゃないわけで、それを知らない人が、今のお話のような声も、出しているともいえるかなあと思ったりもします。より広くアピールをして、内部のこの声を出して市民にこの博物館のよさを伝えられるような部分があってもいいかなと私は思っています。
委員長	いろいろ、申し上げたいことがあるんですけども。かなり話が進んでいますから、今になって言ってもいいかわかりませんが。去年のこの会議で、幾らの人数が入場してこれだけの入場料でやると幾らになるのかという計算がありましたけれども、あの話をもっとしっかりしなきゃいけないと思います。 これについて「第 3 章 限りある財産の見直し」の所を見ますと、施設の費用は利用者で賄うべきだっていう考え方が根本にあると思います。 しかし博物館の仕事っていうのは、その地方の文化を守って、それを深めてそして普及することですが、それは利用者だけの責任ではなく市民の責任です。ですから市がそこに投資、お金を払うのは当然のことだと思います。それを全部利用者の入場料だけで賄うのはおかしいと思います。 例えば、わかり易い例だと、尖石縄文考古館さんに国宝があって、国宝をしっかり研究してもらって、新しい土器、いろんな縄文文化を研究する。それはその博物館に学芸員さんがおられて、市民研究員も、一緒になってやられ

副委員長	ていますからその費用をも、尖石縄文考古館の入場料でまかなうというのはおかしいことです。その時にも申し上げましたけれど、もともと 100% それでやるという前提がおかしい。今から、どこまで押し戻せるかわかりませんけれども。その考え方が基本にあります。 それからもう 1 つ、ちょっと今一番苦しそうなのはここ（八ヶ岳総合博物館）らしいですが、ここは八ヶ岳総合博物館です。私は、外から来たらよくわかるのですが、茅野市の素晴らしい宝の 1 つは、もちろん縄文もそうですし、守矢がある、諏訪大社があるっていう歴史もそうなんですけど、もう 1 つ大変すばらしいのは八ヶ岳山麓の高原なんですよね。だからその八ヶ岳高原の魅力を伝える。 それを掘り起こして、みんなに伝える。かなりたくさんのインバウンドの人たちも、応援も得てそれらを伝えることだと思います。 今茅野駅に行くとすぐ分かりますけど、たくさん降りてくる外国人も日本人もみんなリュックを背負って八ヶ岳に行くわけです。そのために訪れているわけですから。あの人たちも、この八ヶ岳とその山麓のすばらしい自然を守りたいと思うでしょう。それを守る力というのは、やっぱりそこにどういう特徴があるかという学術研究にあるわけですね。 それをやっていくのがこの博物館のこの 1 つの、大きな芯だと思います。それについて思うのは、守矢史料館さんが入場者が非常に多いというのはやっぱり立地がいいんですね、守るべき文化の地にあるんです。 それに対してこの博物館は、八ヶ岳のコースからちょっと遠いのが残念です。ですから、人が八ヶ岳に向かって通っていくところ、例えばロープウェイ、車山高原、蓼科湖などに、展示室みたいなものがあって、八ヶ岳博物館が運営していて、八ヶ岳の自然と文化について展示されている。ヨーロッパの山岳の町に行くとそういうところが必ずあって、その地の登山の歴史などを伝えています。その拠点としてのこの博物館があるという視点を是非持っていただきたいというふうに思います。 八ヶ岳のリゾートとの連携も検討していく価値があるかと思います。観光客に、北横岳のロープウェイに携わっている人達にこういうすばらしいところもあるのでぜひどうぞとかをアピールできれば、また違うかなと思っています。
委員	登山者はもう山に登りに来るけども、八ヶ岳ロープウェイを利用する人は、普通の方や歩いて来る人達だから、ここがあるってことを知れば、またちょっと利用範囲が広がるかなと思ったりして聞いていました。 具体的な中身の意味が流れていたんで、情報発信として宣伝も大事だと思います。でもそれよりも大事なのは、変な言い方ですけど、中身がないものを一生懸命宣伝してもだめなので、さっき言ったように登山客が八ヶ岳の歴史とかをちゃんと勉強できるようなものをテーマにするのも良いと思います。 そういう意味では、霧ヶ峰高原の長野県自然保護センターですか、そこに結構リピートで行っています。湿原がどうやってできたかとかの勉強ができるし、最新のその周辺の森林状況どうなっているとか、森林化が進んでいるとかっていうのはそこで勉強して、森林化が進んでいることが問題なんだ、すごいなと思ったりとか。そうすると子どもたちを連れていっ

委員長	てあげたりすると、その関心があるのかはわからないけれど、そういった何か勉強できるスポットというテーマ性が強いと、何度でも、或いはちょっとずつ変化があるような情報があったりするっていうのは、何度でも行きたくなる場所になると思います。 そのテーマに関心を持っている人は、その大きな変化が知りたくなる。或いはちょっと意外性のある話になると、何となく訪れてみたら、そんな発見があったっていう、そんなことがあったりするのではやっぱその中身のテーマ性もうまく考えておかないと、外の人へのアピールっていうのは、したところで、噂も広がらないというか、そこも重要なかなと思っています。 優先改革事項の寄贈資料受入れ原案について、これでよいと思いますが、資料の受入れに加えて、除却の手続きも加えられた方がよいのではないのでしょうか。
文化財課長	5 その他 委員の皆様は、この3月31日をもちまして任期終了となります。 2年間、大変お世話になり、ありがとうございました。 また、今後につきましては事務局の方から、またお願い等することがございますので、またその時は、よろしくお願いします。
副委員長 文化財課長	それでは本日の協議事項を終了します。 本日はお忙しい中、たくさん本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。 今日お示した案に、本日のご意見を肉付けして、関係課と協議をして参りたいと思っております。ありがとうございます。
委員長	大変熱心なご審議いただきましてありがとうございました。 この2年間私も委員長を務めさせていただいたんですけど、もう十分高齢ですので、ここで退任をさせていただきたいと思います。 何度も申し上げているように、博物館の仕事というのは、来館者を集めるだけではなくて、その地域の文化を守り伝えるということだと思います。 この茅野市の3つの特徴は、やはり縄文、八ヶ岳、そして諏訪大社をめぐる歴史だと思いますので、その3つをそれぞれの博物館さんが、しっかりと守って発展させ、次世代に伝えていただけることを願っておりますし、皆さんのお力がそれを支えていただけると思っております。どうもありがとうございました。 ～午前11時40分 会議終了～